

# 甲賀市の文化財⑳

## 飯道山を繙く



甲賀市指定文化財「飯道山惣絵図」

史跡「飯道神社・飯道山遺跡」に指定され、その山容は甲賀市指定文化財「飯道山惣絵図」により窺うことができます。

飯道山の中でも延喜式内社「飯道神社」は、その中心をなすもので、飯道神社本殿（国指定）は、昭和50年に解体修理され、桃山様式を伝える極彩色の姿が再現されています。

その時、内陣壇内から発見された1038点にも及ぶ懸仏群は、飯道山信仰の片鱗を物語っています。

平安時代後期と推定される蹴彫りされた阿弥陀如来坐像や、在銘品としては最古の建長4年（1252）銘をもつ薬師如来坐像など、江戸時代初頭に至る多数の懸仏が発見され神仏習合の面影を伝えています。

また、かつて本地堂に安置されていたと伝えられる飯道神社の本地仏薬師如来坐像（県指定）は、飯道山信仰の堂々たる威容を伝えています。

神仏習合寺院として栄えた「飯道寺」。惣絵図には、飯道寺の坊舎の配置と規模が詳細に描かれています。淡彩の色彩画で、縦184cm、横185cmでほぼ正方形の大きさの絵図には、大小二十余りの坊舎が描かれ、描かれた時代は、坊舎の荒廃が進んでいた江戸時代中期頃と考えられています。

「近江輿地志略」によれば、享保19年（1734）頃の飯道寺は「梅本・岩本の二院のみ住僧あり」と記されていることから、絵図は荒廃が進んだ飯道寺のありし日の栄華を偲んで作成されたものと考えられているのです。

絵図の左下には「東叡山末江州甲賀郡天台宗飯道寺」とあり、寛永寺の管下に置かれる天台寺院であったことが窺えます。

その中でも、岩本院と梅本院の二院は、醍醐三宝院に所属する当山派正大先達寺院として近世末期まで全国の山伏を支配していました。飯道寺裏判のある補任状が各地から発見されることから、二院の勢力が全国各地に及んでいたことが知られます。

『大乘院寺社雑事記』の延徳4年（1492）の記事に「六角ハ甲賀郡之番頭寺ニ塾居、山伏寺也」とあり、飯道寺は山伏寺という印象で捉えられています。

俳聖芭蕉の「山陰は山伏村のひとかまえ」の一句は、飯道寺山伏が山麓に信仰の基盤を移したその姿を詠んだものといえるかも知れません。

「問い合わせ」  
文化財保護課

☎ 86-8026  
FAX 86-8380

## 田村麻呂と田村神社

毎年2月18日を中心に3日間行われる田村神社（北土山）の厄除大祭。県内外からの参詣でおおいに賑わいます。同社の社名と厄除のことは、もちろん主祭神である坂上田村麻呂（さかのうえのたむらまろ）に由来します。田村麻呂は平安時代のはじめに征夷大將軍となった実在の人物で、その活躍は中学1年の社会科で学んでいます。



大勢の参拝客で賑わう田村神社の厄除大祭

# 市史の小徑

第18回

街道を歩く  
その8

田村麻呂は猛将として聞こえましたが一方で仏法に深く帰依し、田村堂がある京都清水寺はその建立とされます。また彼が平定した東北地方では、悪鬼・悪竜を退治した神話的英雄として信仰を集めています。そこには巡りこられた神が土地の悪霊を退治し治めるといふ庶民信仰が認められるようです。

鈴鹿峠一帯は古代からの交通の要衝であり、峠の神が祭られる場所でもありました。また「今昔物語」に描かれるように山賊も出没、中世にはしばしば討伐が行われています。つまり跳梁する鈴鹿の鬼神を退治したという田村麻呂の縦横無尽な活躍を思い描くにふさわしい場所といえるのです。

来年度刊行予定の市史第1巻では、こうした鈴鹿越をめぐる物語も描かれる予定です。どうぞご期待ください。

【問い合わせ】 総務課市史編纂係  
☎ 86-8075 FAX 86-8380